

26年1月のカレー物価 1食370円 値上げ幅、過去1年間で最小

「カレーショック」収束兆し
2月は367円予想、コメ価格下落が影響

「カレーライス物価指数(2026年基準改定)」調査 —2026年1月



本件照会先

飯島 大介(調査担当)
帝国データバンク
東京支社情報統括部
03-5919-9343(直通)
情報統括部: tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

発表日

2026/03/10

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

次回調査の公表予定

2026年2月の発表は
2026年4月10日(金)午前10時

SUMMARY

2026年1月のカレーライス物価平均は1食370円(前年336円)となった。調査開始以降で最高値を更新したものの、前年(2025年1月:336円)からは34円・10.1%の増加にとどまり、値上げ幅は過去1年間で最小だった。2026年2月のカレーライス物価は1食あたり平均367円台で推移する見通し。2カ月ぶりに360円台へ低下し、前月からは7カ月ぶりに低下する見込み。

株式会社帝国データバンクは、食卓への影響度を示す「カレーライス物価指数」を独自に試算した。

[注1]カレーライス物価:カレーライスで使用する原材料や、調理にかかる水道光熱費などを独自に試算した指数。

ビーフカレー・ポークカレー・チキンカレー・シーフードカレー・野菜カレーの5メニュー平均値

各種価格データは「小売物価統計調査(総務省)」のうち各都市平均値(全国平均)を参照。調理シーンは「6食分(市販のカレールー1/2パック)をまとめて調理した」とした。

カレーライス物価指数:各月のカレーライス物価を基に、2020年平均=100とした価格推移

[注2]カレーライス物価は2026年1月に調査対象・容量を一部変更し、2015年1月分まで遡及改定を行っている

2026年1月のカレーライス物価:1食 370円

過去最高値を更新 前年からの値上げ幅は縮小傾向

カレーライスを家庭で調理する際に必要な原材料や水道光熱費などの価格(全国平均)を基に算出し、食卓に与える物価高の影響を可視化した「カレーライス物価(平均、2026年基準改定)」は、2026年1月平均で1食あたり370円となり、10年前(2016年1月:249円)からは121円・約5割高となったが、調査開始以降で最高値を更新した。前年(2025年1月:336円)からは+34円・10.1%の増加にとどまり、値上げ幅は過去1年で最小だった。

全国の物価の先行指標となる東京都区部の物価動向を基に予想した、前月調査時点の予想値(370円)と一致した。

各メニュー別にカレーライス物価をみると、「国産ビーフカレー」(608円)が最も高く、全メニューで唯一600円を超えた。「シーフードカレー」(535円)は、全メニューで2番目に高いものの、前年からの値上げ金額は「野菜カレー」(280円、+6円)に次いで2番目に低い水準だった。最安値は「チキンカレー」(231円)で、前年からは36円上昇したものの、前月比では全メニューで唯一低下(前月233円、▲2円)した。

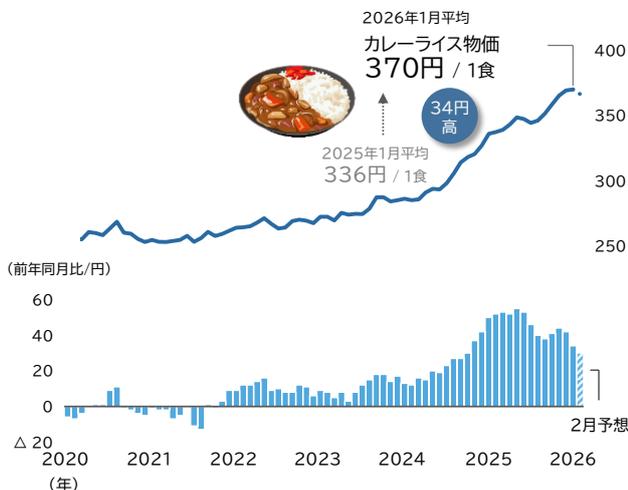
前年同月からの値上げ率を各メニュー別にみると、最も大きいのは「チキンカレー」で、前年から18.5%値上がりした。ただ、20%を超えた前月に比べて上昇率は低下しているほか、30%を超えた2025年6~7月に比べると急激な値上げ傾向から落ち着きつつある。また、全メニューのうち「国産ビーフカレー」「シーフードカレー」「野菜カレー」の3メニューは、前年からの値上げ率が10%を下回った。

冬場の低温や夏場の猛暑の影響で、ニンジンやジャガイモ、タマネギなど主要な材料の収量が見込めず、平年を大幅に上回る高値が続いたほか、各種海鮮素材、食肉類のいずれも前年を上回る価格水準で推移した。他方で、これまでカレー物価の大きな押し上げ要因となっていたコメ類の価格が一転して下落傾向で推移したことで、前月に比べて値上げ幅が押し下げられたメニューが目立った。

各メニューのカレーライス物価平均を基に、2020年平均を基準(100)とした独自算出の「カレーライス物価指数」をみると、2025年の指数は142.9だった。

カレーライス物価の動向(月平均、2020年以降)

「カレーライス物価」推移
(月平均推移)



メニュー別「カレーライス物価」
(2025-26年各1月)

各項目	2026年1月	2025年1月	前年同月比
カレーライス物価平均	370円	336円	+34円
ビーフカレー総合	480円	431円	+49円
(内)輸入ビーフカレー	352円	308円	+44円
(内)国産ビーフカレー	608円	554円	+54円
ポークカレー総合	293円	257円	+36円
(内)輸入ポークカレー	247円	210円	+37円
(内)国産ポークカレー	339円	304円	+35円
チキンカレー	231円	195円	+36円
シーフードカレー	535円	508円	+27円
野菜カレー	280円	274円	+6円

【出所】総務省「小売物価統計調査」を基に帝国データバンク作成
 【※】カレーライス物価:カレーライスで使用する原材料や、調理にかかる水道光熱費などを独自に試算した指数

今後の見通し：2026年2月＝367円台予想

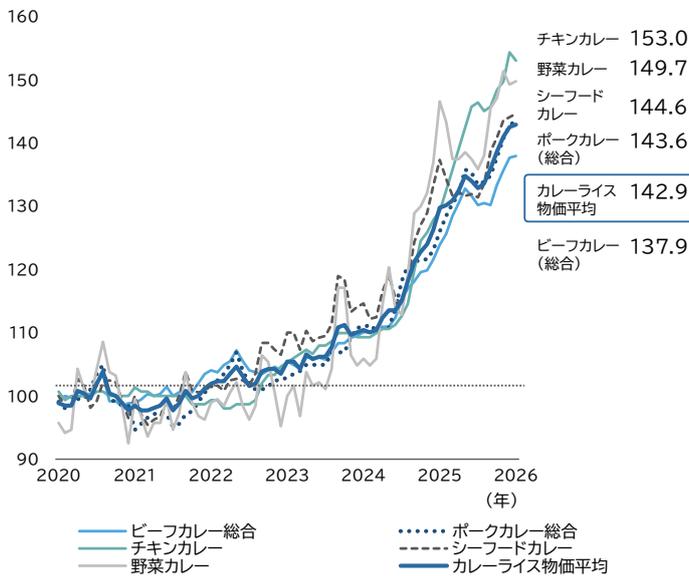
7カ月ぶり「値下げ」も、原油の急騰が食卓に与える影響注視

全国の物価の先行指標となる東京都区部の物価動向を基に予想した2026年2月のカレーライス物価は1食あたり平均367円台で推移する見通しとなった。2カ月ぶりに360円台へ低下するほか、前月からは7カ月ぶりに低下する。また、前年からの値上げ幅は30円(337円→367円)となり、2024年10月以来、1年4カ月ぶりの低水準となる見通し。

カレー具材ではジャガイモやタマネギなどが低温の影響を受けて高値圏で推移するほか、牛肉・豚肉でも輸入品を中心に値上がりが続ぎ、カレー具材では引き続き高値圏内での推移する見通しとなっている。ただ、精米5キログラムあたり5000円を超えていたコシヒカリのほか、他の単一銘柄米の店頭価格で大幅な下落が見込まれ、カレーライス物価のうち多くを占めるごはん(ライス)価格では値下げが見込まれる。この結果、コメ価格高騰を背景に過去最高値圏の水準で推移してきたカレーライス物価に値下げの傾向が強まっており、2025年秋ごろから本格化した「第二次カレーショック」は収束局面へ向かう兆しがみられる。ただ、足元ではイラン情勢の悪化による原油価格の高騰も予見されるなか、さらなる食材高で推移する可能性もあり、食卓における物価高は引き続き予断を許さない状況が続く。

カレーライス物価指数の動向

「カレーライス物価指数」メニュー別推移



消費者物価指数との比較

各項目	2026年1月	前年同月比(%)
総合	112.9	+1.5
生鮮食品を除く総合	112.0	+2.0
食料	129.5	+3.9
生鮮食品	135.6	▲6.9
生鮮食品を除く食料	128.4	+6.2
カレーライス物価指数(帝国データバンク算出)	142.9	+10.1

【出所】総務省「2020年基準消費者物価指数」(全国、2026年1月)

各メニュー別の具材は、各レシピサイト等を基に下記の通りと定義した(ごはん[ライス]、水道光熱費は共通)

- 【ビーフカレー】牛肉(国産・輸入)・タマネギ・ジャガイモ・ニンジン・食用油・カレールー
- 【ポークカレー】豚肉(国産・輸入)・タマネギ・ジャガイモ・ニンジン・食用油・ヨーグルト・カレールー
- 【チキンカレー】鶏肉(国産・モモ)・ニンジン・食用油・カレールー
- 【シーフードカレー】エビ・ホタテ貝柱・イカ・ニンジン・トマト・タマネギ・食用油・白ワイン・カレールー
- 【野菜カレー】タマネギ・ジャガイモ・ニンジン・ナス・シメジ・ブロッコリー・食用油・カレールー